



ごあいさつ



2022年4月1日より、第10代広島YMCA総主事に就任いたしました竹井幸義でございます。主の導きに感謝し、重責を感じながらも強い情熱と使命感をもって広島YMCAの歩みを進めて参ります。

5月5日(こどもの日)、今年も広島YMCA、広島女学院大学共催の「原爆の子の像 建立

記念式典」を実施いたしました。

この像は、佐々木禎子さんが原爆症で亡くなった事を重く受け止めた同級生の、3000枚の手作りちらし、全国中学校校長会議で配布等の積極的な運動が全国に広がり、彼らの熱い思いが実を結び、募金によって建立されました。

戦争があってはいけないという思いを強く持ちますが、ロシアのウクライナ侵攻は今日も続いております。

先日、広島で「ウクライナ支援チャリティー・コンサート」が行われました。YMCA国際幼稚園の卒園生が弾くピアノと、ウクライナ出身の母を持つ友人のバイオリンの美しい旋律は、観客の心を打ちました。中学生と高校生の二人が、一曲一曲を自分たちの言葉で紹介しました。その中で、ウクライナ出身の作曲家はもちろん、ロシア出身の作曲家の曲も選んだ思いを語りました。

「両国が平和になる事が、本当の平和だと考え、両国の作曲家の作品をお聴きいただけます。」と。

若き少年たちの思いに、広島YMCAの使命にある、「国際交流を推進し、平和な社会を実現します。」という決意の大切さを再確認いたしました。ここに広島YMCAのすすむ道が示されています。主の声を聴きとれるよう、研ぎ澄まされた感覚を持ちますので参ります。

1961年から続くホノルル-広島 国際交流活動 Let's Get Together

コロナ禍の中ZOOMを通して国際交流

Let's Get Togetherは、「Remember Pearl Harbor」と「No More Hiroshima」を原点とし、平和を願うホノルル・広島両YMCAの合意によって計画された60年以上の歴史を持つ伝統あるプログラムです。

2019年度までは、隔年で学生の渡航と受け入れをし、キャンプやホームステイを通してお互いの国の文化・習慣を理解し、認め合える関係を築いてきましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大により、お互いの渡航が難しくなっていました。

そこで、大切なこのプログラムを継続するために、Zoomを使ったオンライン交流プログラムを行うことになりました。全3回のプログラムですが、初回として、4月17日にアクティビティ等を通して楽しく過ごしました。ホノルルと日本の学生に「自分たちの共通点を3つ探す。」というテーマでグループワークをおこないましたが、初めて話をする他国の友達との共通点をすぐに見つけ、仲良くなることができました。

プログラムで感じたことは、平和のために私たちができることは「相手を知ろうとすること」「相手に自分を知ってもらうこと」なのではないかという

ことです。育ってきた文化背景や価値観が違う誰かと仲良くなるためには、まず相手を知り、自分を知ってもらうことが大切です。相手に歩み寄り、違いを受け入れようとすれば争いは起きません。理解しあおうという努力こそが平和への第一歩になるのだと思います。参加者たちにとってこの経験が貴重なものになればと思いました。

担当 専門学校 牧野 円香



チャリティーランの収益は障がいのある子ども達の野外活動に活用されています。

ペンギンクラス 野外活動～さかな釣り&どんぐり村～

2022年3月30日(火)に、広島YMCAウエルネススポーツセンター「ペンギンクラス野外活動～さかな釣り&どんぐり村」が行われました。

ペンギンクラスは、小学校～中学生までの障がいのある子どもたちが、毎月隔週でYMCAの8階プールを使い、リーダーたちと活動をしています。子どもたちの障がいのレベルは様々ですが、担当リーダーと寄り添いながら泳ぐ練習をしています。

その子どもたちには、年2回広島YMCAチャリティーランの支援金を使わせていただき、野外活動の機会を設けています。2021年度は夏にカヌーの体験・冬に雪遊びと企画していましたが、天候不良やコロナウイルス感染拡大の影響を受けて行えていませんでした。

ですが今年度で卒業をするメンバーや転勤が決まっているメンバーもいましたので、なんとか年度内に実施したいということで、3月末に行いました。

大暮養魚場の協力をえて、リーダーと2人1組で魚釣り!リーダーの力を借りなくても上手に釣れる子や、なかなかタイミングが合わずにらめっこをしている子。釣れた時の反応はみんなとてもよい笑顔でした。そして生き物がもつ魅力にどんどん引き込まれていきました。

釣った魚はその場で塩焼きに!持参したお弁当を食べながら、徐々にいい色に焼けていくヤマメにわくわくしながら待っていました。さかなを食べられないかもと不安のあった子も、おいしそうに食べてくれました。



午後はどんぐり村に移動して、遊具を使って遊びました。普段はYMCAプールでしか活動しないので、子どもたちの動ける範囲や先の見えない時に行動が止まってしまうことや、意外と一般の方がいらっやっても平気に動きまわることなど、感じることが多かったです。通常のクラスに活かしていきたいと思います。

この子たちと活動をすると、普段見ることのできない時間の流れや景色が見えてきます。卒業する子は、ペンギンクラスには参加できませんが、チャリティーランへの参加など、これからもYMCAと繋がって欲しいと思います。

みなさまの支援で子どもたちと大変貴重な時間を過ごすことができました。そして子どもたちには、たくさんの可能性があると感じました。今後ともご支援よろしくお祈いします。

広島YMCAウエルネススポーツセンター 野々上 隆之

YMCAユース平和ミーティングに向けて 私たちが伝えたいこと

今年もユースリーダーによるユース平和ミーティングの開催が決まりました。リーダーたちに今年のテーマを選んだ経緯や意気込みを聞いてみました。(ユースリーダーは現在7人で活動中。)

今回答えてくれたのは、おかもんリーダー **お**、やよいリーダー **や**、りきやリーダー **り** の3人。(ユースリーダーは随時募集中)



—— 去年は、当たり前だった自分たちの生活が、突然戦争によって奪われるということがどうなんだろうかってことを考えたよね。今年はもう少し枠を広げて、他者を認めないことから争いが起きる、人が人を認めないってどういうことなんだろう、じゃあ差別だとか他者を認めないという世界の真ただ中にいた被爆者の李鐘根さんに話を聞いてみようということになった ——。

- お** 差別をテーマにあげたいね、って話が出て。差別はずっと昔から続いているもので今も全然消えてないもの。人と違うことは結局個性。その人の個性であって全然いけないことじゃないからその個性をどれだけ大切に、周りの人もどれだけ受け止めることができ、これからどうやって生きていかっていのを考えたと思ってこのテーマにしました。
- や** それを若い世代とわたしは重点的に考えたいなと思って、前回原爆のことに触れて現代の若者とはかけ離れた内容のテーマだったと思うんですけど。
- お** 今回は自分の国でもまだ根付いているもの。だからちょっと身近かな。
- や** 国とか関係なく個人の問題ってところからきてるのかな、今回のテーマは。
- り** 2人が言ったみたいに差別は今も昔も変わらず続いていて、今回こういうテーマでミーティングをするのでこれから自分事に考えて自分の個性も大事にしてもらいたいなって思います。

—— 人が生きる権利や幸せに生きる条件を奪われる、疎外されることってどういうことなんだろうかってことをみんなで話し合いたい、と出てきたテーマが「生きててくれてありがとう～個性について学び生きる意味を一緒に考えませんか～」だったよね。どんな人たちに参加してほしいですか。

- り** 去年はリーダーだけだったんですけど、今年はリーダー以外の一般の若い人とか大人の人でもいいますし、性別や国籍も関係なくみんなが意見を出し合ったりして交流したいなと思っています。
- や** 私も年齢も国も問わず色々な人に来てほしいと思っているんですけど、その理由としては、差別って重くとらえられやすいテーマだからこそ、身近に差別があってそれについて考えたいという人だけじゃなくて、もしかしたら自分自身が偏見を持ってるかもしれないから、もっと色々な人の意見を聞きたいって思ってる人にも幅広く来てもらいたいです。
- お** 幅広い意見を聞くことでいろんな個性を見ることができるし、みんなで「テーマ」を自分事として考えながらお話しをしたいなと思います。

聞き手:国際コミュニティーセンター 中興 岳生 ライター:外語学院 渡邊 裕子

オンライン開催 YMCAユース平和ミーティング



日程

2022年7月29日 (金) 午後7時～9時

内容

原爆被爆者の証言やグループワークを通して参加者とテーマについて考えます。

テーマ

「生きててくれてありがとう」
～個性について学び 生きる意味を一緒に考えませんか～

対象

大学生・高校生・一般



広島YMCAでは一緒に活動してくれるユースリーダーを随時募集しています。また、みなさまのご支援により持続的なユースリーダーの育成をしています。

広島YMCA灯ろう流し準備中!



今から17年前の2005年「サダコの折鶴」の話を知ったヨーロッパのアルメニアという国から、広島の灯ろう流しで平和のメッセージを流してほしいという要望が広島市に届きました。広島市も特定の国だけの要望を具体的に形にすることが難しいということで、広島YMCAに相談があり、アルメニアのこどもたちの思いを具体的にプログラムにしたのが、YMCAの平和の灯ろう流しです。広島YMCAのパートナーシップのYMCAにも呼びかけ、多くの国から平和の

メッセージが届くようになりました。広島YMCAに参加する子ども達やファミリー、海外の若者も一緒に平和のメッセージを灯ろうとして作成し、8/6に原爆ドーム前の元安川に浮かべ、平和への祈りをささげています。

コロナ禍となり、2年間灯ろう流しは中止となっていますが、YMCAでは違った形で平和メッセージを灯ろうにするプログラムを準備中です。詳細が決まりましたらホームページでお知らせいたします。

聖書の窓

今月の聖句

「体は一つでも、多くの部分から成り、体のすべての部分の数は多くても、体は一つであるように、キリストの場合も同様である。」

(コリントの信徒への手紙一 12章12節・広島YMCA2022年度年間聖句)



広島女学院大学宗教委員長
人文学部・人間生活学部
共通教育部門 教授
広島YMCAチャブレン
広島YMCA常議員
澤村 雅史

今、私たちはようやくコロナ禍の長いトンネルを抜け、おそろおそろ新たな歩みをはじめようとしています。

そんな矢先に、ロシアがウクライナへの侵略を始めました。ロシアの危機感にも理由もあり、ここに至る歴史の積み重ねがあることは確かです。しかし、いかなる理屈でも戦争を正当化することはできません。地震やコロナ禍とは異なり、「戦争は人間のしわざ」(教皇ヨハネ・パウロ二世の広島『平和アピール』より)、すなわち人間の意思によって始められるものであり、それゆえに踏みとどまることのできるもの、踏みとどまるべきものだからです。

広島YMCAは1938年10月25日に、戦時体制につき進む日本・広島の状態のなかで設立されました。戦後の広島YMCAの歩みは1946年

8月6日の、焼け野原の広島からの平和宣言に一つの起点をもちます。まさに戦争という闇が暗ければ暗いほど「光は暗闇の中で輝いた」(ヨハネによる福音書1章5節a)のです。今こそ私たちはこの思いと原点に立ち返り、暗闇の中に輝く小さな、しかし確かに互いを照らすともし火となろうではありませんか。

戦争は一人ひとりがかげがえのない「あなた」であることをかき消し、人間から人間性をはぎ取っていきます。「全体」や「国」や「正義」が頼もしく思ってしまう今だからこそ、私たちはそれらに先立って「かけがえのないあなたとわたし」という関係を、広島YMCAで見つけていきたいものです。

ウクライナからの避難者サポートと緊急支援募金報告

ロシアによる軍事侵襲で激戦の続くウクライナ東部ドネツク州出身で広島県三次市に住むオクサナ・ヤシチェンコさんを頼り、同州から避難してきたこのイリーナ・プワイロさんたち一家5人が、広島県三次市に無事到着しました。イリーナさんは安堵しつつも現地に残る親族や友人を心配し、一日も早い戦争の終結を願っています。

この家族の日本への避難をサポートしたのが、日本YMCA同盟です。ポーランドYMCAと密な連絡を取り合いながら、今回の来日までの手配を行いました。日本YMCA同盟を通して人道支援の日本での避難者受け入れ事業が現在進んでいます。

広島YMCAにおいてもウクライナ緊急支援募金について4月末まで行いました。現時点で563,775円が集まりましたので、日本YMCA同盟に送金する予定です。

この様子はYouTubeでもご覧いただけます。



ウクライナ東部から避難 イリーナさんら家族5人

ヤシチェンコさん(手前右端)の自宅で笑顔を見せるイリーナさん(左端)たち家族。奥右は豊奈さん

早期終戦願う

イリーナさん(手前右端)は、長男アレクサンドルさん(12)、長女タタリヤさん(10)、生後7カ月の次女イリーナちゃん(自宅)を連れて、4日にポーランドに到着し、首都ワルシャワの日本大使館に到着した。イリーナさん(手前右端)は、長男アレクサンドルさん(12)、長女タタリヤさん(10)、生後7カ月の次女イリーナちゃん(自宅)を連れて、4日にポーランドに到着し、首都ワルシャワの日本大使館に到着した。イリーナさん(手前右端)は、長男アレクサンドルさん(12)、長女タタリヤさん(10)、生後7カ月の次女イリーナちゃん(自宅)を連れて、4日にポーランドに到着し、首都ワルシャワの日本大使館に到着した。

いとこ住む三次到着に安堵

ロシアによる軍事侵襲で激戦の続くウクライナ東部ドネツク州出身で三次市に住むオクサナ・ヤシチェンコさん(46)を頼り、同州から避難してきたこのイリーナ・プワイロさん(36)たち一家5人が、同日無事到着した。イリーナさん(左端)は、長男アレクサンドルさん(12)、長女タタリヤさん(10)、生後7カ月の次女イリーナちゃん(自宅)を連れて、4日にポーランドに到着し、首都ワルシャワの日本大使館に到着した。

ただ、ドミトリーさんとイリーナさんの両親やきょうだい、知人はウクライナにいます。2人は一歩は避難できないほど事態は悪化している。また会える分らないと思う。早く戦争が終わってほしい」と祈るように語った。

生活全般で支援

三次市は、ウクライナから同市に一家5人が避難してきたのを支え、生活全般のサポートを進める。市内の企業や団体から申し出のあった避難者への協力についても活用していく。

市は、家族が訪日可能な1年の「特定活動」のビザを取得でき次第、同市への住民登録をしてもいい。国民健康保険への加入も市

また市は、子ども3人の健康状態の聞き取りをし、要領があれば学校や保育所への受け入れも進める。市定対策・暮らし支援課の香谷巧課長は「連絡を密にし、必要支援に対応していく」としている。

市による「避難者への生活支援」は、16日午前5時飛行機でたち、16日午前10時空

会、三次市は17日に到着した。イリーナさん(手前右端)は、長男アレクサンドルさん(12)、長女タタリヤさん(10)、生後7カ月の次女イリーナちゃん(自宅)を連れて、4日にポーランドに到着し、首都ワルシャワの日本大使館に到着した。

記事は2022年4月22日 中国新聞朝刊より

広島YMCAネットワーク

【学校法人】

- ◎広島YMCA 〒730-8523 広島市中区八丁堀7-11 TEL 082-228-2266
- ◎東広島YMCA 〒739-0043 東広島市西条西本町28-6 サンスクエア東広島4F TEL 082-423-1717
- ◎YMCA米子医療福祉専門学校 〒683-0825 米子市錦海町3丁目3-2 TEL 0859-35-3181
- ◎岩国YMCA国際医療福祉専門学校 〒740-0018 岩国市麻里布町2-6-25 TEL 0827-29-2233
- ◎雲月山キャンプ村 〒731-2311 山県郡北広島町土橋 TEL 0826-35-0384
- 【公益財団法人】
- ◎広島YMCA国際コミュニティーセンター 〒730-8523 広島市中区八丁堀7-11 TEL 082-228-1151

【社会福祉法人】

- ◎広島YMCA福祉会 〒730-8523 広島市中区八丁堀7-11 TEL 082-227-2884
- ◎広島友愛福祉会 〒739-0651 大竹市坂波4丁目8-8 TEL 0827-57-7500
- 【株式会社】
- ◎ユースサービス 〒730-8523 広島市中区八丁堀7-11 TEL 082-222-9500
- 【株式会社受託事業】
- ◎川・森・文化・交流センター 〒731-3501 山県郡安芸太田町大字加計5908-2 TEL 0826-22-2126